

第3回 伊丹市総合計画審議会部会（第1部会） 議事概要

開催日時	令和元年11月20日（水）午前10時00分～12時00分
開催場所	伊丹市役所議会棟3階 第2委員会室
出席者	直田委員、加賀委員、坂本委員、徐委員、辻委員、西濱委員、宮脇委員、上田委員、木村委員
欠席者	植木委員、榎木委員、寺坂委員
事務局	総合政策部長・政策室長 他3名
傍聴者	0名
議題(案件)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第6次伊丹市総合計画 基本計画の検討 3. その他 4. 閉会
資料	資料① 伊丹市総合計画基本計画（素案）【修正版】 資料② 今後の審議会スケジュール

議 事 の 経 過	
発言者	発言の内容
	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・録音の確認 ・資料確認 ・委員総数 12 名のうち 9 名が出席しており、本会議が成立していることを確認。 ・会議録の署名委員が宮脇委員と上田委員であることを確認。 ・傍聴が 0 名であることを確認。
	<p>2 議題 第 6 次伊丹市総合計画 基本計画の検討</p>
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局から資料を説明頂き、意見を頂きたい。 (事務局より資料①について説明)
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・1-1「地震・風水害対策」の取り組みの方向性について、避難住民とあるが、被災住民と変更した方が良いのではないか。 ・市民全体で行うことなので、避難の記載は不要ではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な表現に修正する。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・基本計画の前提となる全体の将来像や基本方針は示されていないのか。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・第 2 回審議会で示していただいたものが基本構想という理解でよろしいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの審議会資料から変更点はない。将来像ならびに検討に向けた考え方の文言もそのままである。施策の大綱と施策は最新版をお示ししている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・第 5 次総合計画では行政と市民の協働が前面に押し出されているが、この計画では主体が市民なのか行政なのか、あるいは共にやるのか見えてこない。個々の内容は理解できるが、誰が行動するのかが明確でない。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・昔の総合計画は行政計画の側面が強く、行政が市民に示すものであった。今はそのような時代ではなく、市民と行政が協働で取り組むものと理解しているが、どこかに明示はしているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・基本構想において市民参画と協働の取組の推進や市民相互の支え合いといったことを記載している。前回会議まで、大綱 6 は「行政経営」という名称で表現していたが、市民の関わる部分が行政経営という言葉からは見えづらいという意見もあり、「参画と協働・行政経営」と改めている。 ・市民と行政が、参画と協働でまちづくりを進めていくことが計画の根幹にあるため、第 6 次総合計画は市民とともにまちづくりを進めていく計画である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・第 5 次総合計画では将来像が「みんなの夢 まちの魅力 ともにつくる 伊丹」となっているが、今回の計画では将来像は無いのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・将来像は次回の審議会以案を提示させていただく。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・市民と共にまちづくりに取り組むということを、どこかに明示する必要がある。次回の全体会で議論したい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・将来像を踏まえた文章の書きぶりとする必要がある。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・基本構想を次回以降の審議会でも検討する中で、その考え方を踏まえていきたい。

部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・実施計画の段階では、住民や地域、行政が行うことの役割分担を記載する自治体も多い。行動主体は大切なので、明示しておいた方が良い。防災をはじめとして、市民が担うべき役割も多い。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・5-2「循環型社会の形成」について、廃棄物の処理施設は豊中市伊丹市クリーンランドを示しているのか。
事務局 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・お見込みのとおり、豊中市伊丹市クリーンランドのごみ処理施設を指す。 ・豊中市との共同事業であり、伊丹市の計画として推進すると記載しても問題はないか。
部会長 事務局 部会長 事務局 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・クリーンランドは一部事務組合なのか。 ・お見込みのとおりである。 ・記載は問題ないと考えるが、いかがか。 ・クリーンランド議会でも同様の方向性を持っていると認識している。 ・5-3「公園・緑地・生物多様性」について、自主的な緑化活動の支援について表記が分かりにくい。また、地域の個性を高める緑化活動という点についても、何を指しているのか分からない。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・公共スペースの緑化は行政主導で推進できるが、事業所や家庭の緑化は、自主的に緑化活動に取り組んでいただくことになり、そのことについて謳っている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所と家庭を並べて記載すると理解しにくい。身近なものを緑化するということか、町全体を皆で緑化するのか。これらを分けて記載したほうが分かりやすい。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の緑化は自分の楽しみとして緑を育てるということだが、事業所はまち全体の緑化が基本と思われる。そのためこの文章は事業所に対してのウエイトが大きい。
委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での緑化に対する支援はどのようなものがあるのか。 ・伊丹市は公共施設と公園の緑化率は高く、ボランティア団体による緑化活動や公園アダプトが盛んである。市としてどのような事業を実施しているかについては、記載内容と合わせて検討する。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・1-3「交通安全・地域防犯」の現状と課題について、交通事故の発生ではなく抑制と記載するべきだ。また、特殊詐欺の手法が多様化しているのであり、「による被害」は削除した方が良い。 ・4-3「歴史・文化」で東り いたみホールが文化会館と記載されているが、正式名称は文化会館なのか。
事務局 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・お見込みのとおりである。 ・住民に伝わる表現としていただきたい。 ・5-5「交通・道路」で、ユニバーサルデザイン化について記載されているが、ユニバーサルデザインの視点による歩道の平坦化としていただきたい。 ・6-2「ICT（情報通信技術）の活用」で、地域課題について「課」が抜けている誤植がある。 ・現状と課題では Society5.0 について記載されているが、施策名や基本方針が

部会長 事務局	<p>内容と合っていないと感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本計画の審議は収束していく必要はあると認識しているが、将来像が見えていないため、仮決めで進めていただければと思う。 文言については言葉の順序の変更や加除などして修正いただきたい。市民会館の通称については記載することに支障はないと考える。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ネーミングライツには契約期間があるので、通称名のいたみホールという表現を検討する。 総務省から 2040 年の自治体のあり方について提言があり、その中に情報化や IT を取り入れながら効率化を行うことについてまとめられている。Society5.0 はあいまいな概念なので、国の表現に合わせる必要はない。実際に取り組む施策の方が大事であり、そのあたりを整理していただき検討をお願いしたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ICT は、第 2 部会の担当なのでこちらでは意見として承る。 伊丹らしさを感じられない。生活者であったり労働者であったり市民の立場はそれぞれだが、意識がこちらに向いていない人に対して意識してもらえようような働きかけは大切である。キャッチコピーのような言葉の力や、パンフレットの視覚的な効果などについて考えていただきたい。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> コンパクトに計画をまとめようとする一般的な記載になってしまう。現状と課題は全国的に共通するものが多く、ブランドや文化などは伊丹特有のものはあるが、そうでない部分もある。全体的に伊丹市のことを思い浮かべられる記載ができれば良い。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 市民が読んだ際に、自分ごとだと捉えてもらえる文章とするべきだ。 端的に集約された課題の中で、今後どのように動いていくか。行政にも限度があるので、施策の優先順位を決めることが今後課題になってくる。 6-1「参画と協働」について、市民と現状を共有し、どのように対処していくか、これから考えていく必要がある。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> 現在はいろいろな場面で、市民活動支援など推進できているが、これからは正念場である。具体化した施策について議論が必要になってくる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 6-2「ICT の活用」は、取り組みの主体が分からない。AI やロボットの活用は、大手企業にはマッチするかもしれないが、伊丹の企業の大多数を占める中小企業では難しい。例えば、兵庫県は建設業でも ICT 施工に力を入れているが、費用対効果を考えると取り入れることは難しい。 施策 1-1 地震・風水害対策の中で、ドローンやロボットなどの先端技術の活用について記載されているが、有事の際に活用できる事業者が存在するのか疑問である。 IT 化を進めて行く上では、停電した時のマイナス要素も考慮して検討を進めていく必要がある。 4-6「雇用と労働」で、労働力不足への対応としては、外国人労働者の雇用について深く考えていく必要がある。AI、ロボットよりも重要と考える。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> AI を導入すれば行政職員が不要になるわけではなく、人に対するサービスは

委員	<p>これからも重要な側面がある。AI を導入するから効率化するという話ではないため、いろいろな含みを持たせた表現を検討していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4-2「都市ブランド」で「まちの魅力」と「都市の魅力」と表現が混在している。 ・5-4「都市計画・住環境」で、「都市としてのまちの魅力」という表現があるが、これとの関係についても整理する必要があるのではないか。 ・4-7「空港との共生」で関係機関の記載はあるが、他の施策と同じように具体的な例示を示した方が分かりやすい表記となるのではないか。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・「都市」と「まち」の使い方については整理していただきたい。また、関係機関についても具体的なものがあれば明記していただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・6-2「ICT の活用」で 1-3「交通安全・地域防犯」のミマモルメの内容を記載しても良いのではないか。各所に記載していることを 6-2 にまとめて記載することも考えていただきたい。 ・4-5「都市農業」の関連で、伊丹の居住地は農地に近接しており、居住地域としてかなり高く評価されている。伊丹らしさを取り入れる余地がある部分はもう少し記載しても良いのではないか。 ・6-3「行財政運営」について、大綱 6 の名称では行政経営となっている。運営が主体となっているが、考え方の整理が必要である。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT に関しては全体を通して整理をお願いしたい。 ・伊丹らしさの表現は、読み手が自分事の計画だと認知してもらえよう、一工夫お願いしたい。 ・経営と運営の使い分けはどうしているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・6-3「行財政運営」は、財政運営や人事行政など、行政の動き方や、持続的な行政サービスの運営に主眼を置いた書き方となっている。大綱 6 の中身は大綱 1 から大綱 5 の前提となるものだが、その趣旨が伝わりにくいので表現の方法を検討する。
部会長 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・行政経営の定義について整理しておく必要がある。 ・全体的に、もう少し踏み出した記載でも良いのではないか。例えば 1-1「地震・風水害対策」では南海トラフ地震の発生によって市政に影響を及ぼすという、インパクトのある書きぶりにするなど。 ・災害発生時には公的機関だけでの対応が困難になるだろうとあるが、はっきりと対応できない旨を記載すべきである。 ・大規模災害発生時の迅速な取り組みについても、市民とともに取り組む旨を記載しても良いのではないか。 ・全体的に、現状の記載はあるが課題が書かれていない施策もある。課題があるのであればそれを明確にして、想定されるものではなく、言い切るくらいのことを書いても良いのではないか。各課で横断するものを記載していただきたい。 ・ICT は市民サービス提供の手段であり、目指すまちの姿は市民が満足するサービスの提供である。タイトルがふさわしくない。

部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・避難住民の協力についても、全市民に関係することである。視点を少し変えてまとめていただきたい。 ・1-1「地震・風水害対策」は、一般論だと南海トラフの地震があれば大きな被害が出るだろうが、伊丹でどうなるか書き込むことで伊丹らしさが出てくる。津波の危険性が少ないことや、場合によっては他市へ応援しに行くこと、猪名川や武庫川といった具体的な名称を記載するだけでも、計画は身近なものとなるだろう。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を明確にしておけば、きちんとした対応策が考えられ、それに応じた予算をつけるということにつながる。 ・子どもが参加したくなるような企画が充実していることは重要なポイントと考える。防災訓練への参加を通じて、幼い時に自衛隊の人と助け合って災害対応など行うということが記憶の中であれば、伊丹の場合は特に自衛隊が身近な存在としてとらえることができる。 ・5-6「水道・下水道」で、伊丹市には有事の際に備えて学校など市内に3～4か所の緊急貯水槽がある。子どもやその保護者が実物を見る機会を設けることで、防災意識の高揚につながる。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・本来、防災訓練は地区ごとに行うことが理想である。地区防災計画を積極的に策定している自治体もあり、このような取り組みの中で住民に防災への関心を持ってもらうことが大切である。 ・地域で日頃から、避難所運営や高齢者等の避難方法など、災害について考える機会があれば、いざという時に役立つだろう。そういうことを通じて災害に関する関心を高めて、自分に何ができるのかを考えていただくことが一番のポイントかもしれない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・5年ほど前、中心市街地の商業者にインタビューをしたが、活発な地域づくりのためには人間関係づくりが必要ということが分かった。実行委員がイベントを企画すれば、他の人が応援に来てくれる助け合いの関係ができていく。 ・かつて、このような人間関係はなかった。当時市民活動を行っていた人が、30歳代、40歳代の人にノウハウを伝えている。人材育成のためには経験者を呼んで講演会を行うより、実際に汗をかいて関係作りを行うことが有効である。 ・伊丹の特徴としては、オトラクサポーターという市民のサポーターが60～70人おり、層が厚い。このようなことは他の人には伝わっていないところがある。 ・イベントのお客さんが主催者側に回り、その面白さがやみつきになり、循環していることは伊丹の特徴だ。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・人づくりは人間関係づくりで、そのために人が出会うための場を作る必要がある。人づくりの記載は多く書かれているが、関係づくりも重要な視点である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・4-3「歴史・文化」は、現状の取り組みが記載されているが、これまでと違う取り組みや改善すべき取り組みについて記載しても良いのではないかと。伊丹

部会長	<p>市は文化施設が充実しているなので、うまく活用する必要がある。併せて、ソフト面についても検討していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境の施策については、公園や昆陽池公園、昆虫館といった具体的なことが書かれているのでイメージしやすい。 文化施設は、美術館などの名前を挙げてソフト的な方向性を明示すれば、ブランド力の向上や市民のアイデンティティを高めることにつながり、面白い成果が上がる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> この計画は市から出されるものなので、受け取った側は「協働」や「共に」ということが書かれていても、準備ができていない場合もある。個々のイベントなどで意識を育てるようなアプローチをしておけば、計画の中身と市民の実態がマッチするのではないか。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> 行政から押し付けるような表現については工夫する必要があるが、行政職員の強い思いが入っていれば、ある程度市民へ要望する形の文章であっても、市民は納得してもらえないのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 4-1「市民力・地域力」にコミュニティとあるが、これは地域なのか市民全体を指しているのかが分からない。市民の自発的な活動や人材育成についてもここに盛り込んでも良いのではないか。このことが地域ブランドにも結びついていく。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> 市民力は対象が幅広い。まちづくり活動など例示を挙げて、幅広く捉えていくことは押さえておいた方が良い。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 組織立って地域の見守りをしている地域は担い手が少なくなっていると聞いている。私たちの地域は決まりが無く、ゆるやかに続けている。組織や決まりのもとで活動すると持続することが難しくなる。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> 自発的にゆるやかな活動を行っていく活動は続くものである。まちづくりの自発的な空気を醸成することは総合計画の根底にある。
部会長	<p>3 その他 (スケジュールについて事務局より説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後、タイトなスケジュールが続くが、部会としては終了となる。これまでご審議いただき感謝申し上げます。 <p>(以上)</p>